

県立日立第一高等学校附属中学校【総合的な学習の時間の全体計画】（令和6年度）

総合的な学習の時間の第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

サイエンスリテラシーの目標

最先端科学技術や医療・自然等に関する課題を見だし、調べ学習や企業見学・体験活動、自然観察、講話等を通して科学に物事を判断し考える力を育て、課題を解決し、まとめたことを発表し合い、発信する能力を育む。

グローバルコミュニケーションの目標

自国の文化と海外の文化を調べたり比較したりすることで、国際理解を深める。また、プレゼンテーションを通して、言語表現能力およびコミュニケーション能力の育成を図る。

キャリア教育の目標

職場体験学習やHRセミナーを通して、勤労の尊さや意義を学び、自己理解を深めるとともに、望ましい職業観を養い、自分自身の将来の主体的進路選択能力を身に付ける。

総合的な学習の時間の学習評価

1学年

4つの観点（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）をもとに、身に付いた力を文章で表現し、通知表で本人・保護者に示す。

2学年

4つの観点（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）をもとに、身に付いた力を文章で表現し、通知表で本人・保護者に示す。

3学年

4つの観点（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）をもとに、身に付いた力を文章で表現し、通知表で本人・保護者に示す。

生徒の実態

- 人の話に耳を傾け、理解しようとする気持ちがある
- 自分たちで課題を決め、調べたり実験したりして課題についての最適解を見つけようとする探究する心を育てる必要がある。
- 生活の中で実体験することが少ないため、主体的に体験できる機会を、意図的に設定する必要がある。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- コミュニケーション、感情コントロール、認知機能、身体的不器用さ、情報の整理等に困り感をもつ生徒の情報を収集し、配慮を要する生徒の支援目標を教員間で共有する
- 体験活動やグループ活動等の場面では、個に応じた役割や課題の設定ができるようにする
- 生徒全員が自分の感性を受け入れ、長所を伸ばし、互いに違いを認め合える学級集団を育む

目指す生徒の姿

- 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒
- 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒
- 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒
- 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

1学年

グローバルコミュニケーション

- 伝え合う力やプレゼンテーション能力を育む。
- コミュニケーション能力の伸長を図る。

サイエンスリテラシー

- 科学する心を育てる。
- 身近な問題から適切に課題を設定し、解決の仮説を立てる能力を育む。

キャリア教育

- 望ましい勤労観や職業観を身に付ける。

2学年

グローバルコミュニケーション

- 伝え合う力やプレゼンテーション能力を育む。
- コミュニケーション能力の伸長を図る。

サイエンスリテラシー

- 科学する心を育てる。
- 複雑な問題から適切に課題を設定し、根拠に基づいた仮説を立て、それを検証するための計画を立案できる能力を育む。

キャリア教育

- 望ましい勤労観や職業観を身に付ける。
- 自己の進路を決定していける資質・能力を育む。

3学年

グローバルコミュニケーション

- 伝え合う力やプレゼンテーション能力を育む。
- コミュニケーション能力の伸長を図る。

サイエンスリテラシー

- 科学する心を育てる。
- 問題の中から状況を絞り込み課題を設定し、仮説・検証方法を考え、まとめたことを発表し、発信する能力を育む。

キャリア教育

- 望ましい勤労観や職業観を身に付ける。

学習活動、指導方法等

1学年

サイエンスリテラシーでは、生徒が研究を進める上で必要となる「テーマの見つけ方」「ポスターのまとめ方」などについて、クロームブックを活用して技能を身に付ける。また、生徒が研究課題を設定し、調査や実験などを行い、考察し自分たちの考えをまとめ、発表をする。グローバルコミュニケーションでは、身近な題材でスピーチしたり、ディベート活動をしたりして、表現力を高める。キャリア教育では、社会人を外部講師として招き、様々な職種に関する講話を聞く。

2学年

サイエンスリテラシーでは、日常生活を振り返って研究課題を見つけ、調査や実験を行い、考察し自分たちの考えをまとめ、発表する。グローバルコミュニケーションでは、茨城県内にあるSDGsについての取り組みを英語でまとめ、プレゼンテーションを作成し、発表する。また、語学宿泊学習では英会話中心の講習を受けて、表現力を高める。キャリア教育では、職業や資格、進路について調べ学習をする。

3学年

サイエンスリテラシーでは、2学年で研究発表した内容について、調査や実験を追加し、考察して自分たちの考えをまとめ、発表する。グローバルコミュニケーションでは、テーマを決めてプレゼンテーションを作成し、海外語学研修で現地の方々に発表する活動を通して国際交流を深める。キャリア教育では職場体験を行い、勤労意欲を高める。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

総合的な学習の時間については、教頭、教務部、進路指導部、サイエンス部、1学年、2学年、3学年が連携して、3年間の計画立案を行う。外部の機関や講師との連絡は、サイエンス部、進路指導部、各学年の係が協力して行う。